



「心經」張愛玲 著

二玄社『中国現代文学珠玉選[小説3]』より

講師:永井 英美 氏 (立命館孔子学院中国語講師)

2/20 土

12:30~14:30

立命館孔子学院図書室

読書会

中国の小説に興味がある方、
本を読むのが好きな方、
一緒に「読書会」をしませんか。

- 感想を話し合いますので、なるべく事前に作品を読んでご参加ください。
- 前日まで、もしくは当日の開始1時間以上前にお越しください、事務局で作品のコピーをお渡してきます。

●テキスト・作品●

現在、二玄社『中国現代文学珠玉選[小説3]』所収の作品を順に読んでいます。テキスト購入費は参加者負担ですが、現在絶版となっておりますので、事務局で作品のコピーをお渡してきます。図書館や古書をご利用いただいても結構です。

●お申込み方法●

前日までに孔子学院事務局まで、電話・FAXもしくはメールにてご連絡下さい。

●お申込み・お問合せ先●

立命館孔子学院

〒603-857

京都市北区等持院北町56-1

立命館大学 アカデミア立命21内

TEL:075-465-8426

FAX:075-465-8429

Mail:koza@st.ritsume.ac.jp

http://www.ritsume.ac.jp/confucius/



●作品冒頭部分●

許小寒はいった、「綾卿、お父さまはあなたに会ったこともないのに、あなたの電話番号をすらすらいえるのよ」

彼女の同級生の段綾卿がいぶかしげにたずねた、「どうしてなの」

「お父さまは物覚えがとでもわるいくせに、電話番号だけは例外なの。私、友達番号を控えるのが面倒なときはすぐ、お父さま登録して、とたのおの。そうすると頭の中にさっさと登録してしまうのよ」

みんなはどっと笑った。小寒は白宮マンションの屋上にある花園のコンクリートの高い手摺に腰を掛け、その下に五人の娘たちが集まっていた――

●作者紹介●

張愛玲(1920-1995)

上海生まれ。李鴻章の娘を祖母、張佩綸を祖父とする名門の出身。37年夏キリスト教系女学校を卒業。38年ロンドン大学の留学生試験に合格するが、欧州情勢の悪化のため、翌年香港大学に入学。太平洋戦争開始後、上海にもどる。43年小説「沈香屑」が雑誌『紫羅蘭』に掲載され、日本と傀儡政権の支配下にあって通俗小説、市民小説の需要が拡大していた上海の読書界に新鮮な驚きを与え、「心経」「傾城之恋」「金鎖記」「封鎖」などを次々と発表、その天才的な活躍は目ざましかった。作品は中西文化の交錯する植民地都市上海、香港の上・中層階級の女性の生の桎梏、人間性の屈折やあらがいが、下層階級の女性の悲哀などを凄涼感をたたえた冷静な筆致と巧みな技巧で描く。52年に香港に移り「秧歌」「赤地之恋」など新中国の建設過程を否定的に描く小説を発表。55年渡米、晩年は『紅樓夢』『海上花列伝』などの研究に従事した。